

ふるさとふちゅう

再発見

【第36回】 府中町で体験、四国お遍路(22) 正観寺(2)

江戸時代の正観寺については広島藩の地誌である『知新集十一』に詳しく書かれています。この書は文政2(1819)年の書で所在地の白鳥の名前の由来、三角州の中でも早く開かれた地であること、享保年間(1716年～1736年)には藩主浅野吉長から銀貨500目を隔年に賜ったことなどが記されており、一定の寺格をもつ寺院であったことが分かります。

なお、この書には「中興開山宥尊 慶長十七年壬子の慶安四年辛卯まで四十年住職、同年六月二日寂」とあります。宥尊が慶長17(1612)年から慶安4(1651)年まで40年間住職を務め死亡したということとです。住職になるということは一定の年齢以上で、住職に推薦されるだけの実績があり、それを評価する有力者がいたのでしょう。福島正則は慶長5(1600)年の関ヶ原の合戦後、尾張清州(愛知県)から芸備両国49万石に移封されます。翌年から領内の検地、刀狩を命じるなど領国経営を進めます。『新修広島市史第五巻』には福島正

則が広島城下の国泰寺や明星院不動院、多聞院などの寺院に多くの寄進をしたとあります。この時期に宥尊が「中興開山」と称されるほどの整備を行えたのは相当の支援者がいたからでしょう。

なおこの書には正観寺の様子が記されており、境内には三間半(約6.3m)四方の本堂、8間半(15.3m)×3間(5.4m)の庫裡の他、天満宮、大黒堂、地藏堂、稻荷社があり、面積2反2畝12歩(約2220㎡)の大寺院であったことが分かります。

図は『新修広島市史第五巻』の広島城下侍屋敷絵図の一部(寛政10年)です。周囲は家老浅野孫左衛門の下屋敷ほか武家屋敷です。川沿いの名前の無いところは町家です。



府中町文化財保護審議会委員

菅 信博

正しいごみ出しにご協力を

府中町環境センター ☎286-3266

カラス対策のため、生ごみは収集日の朝に出しましょう！

年始・祝日の特別収集

- 1月1日(月)～3日(水)まで、ごみの収集は行いません。
- ◆1月4日(木)から、通常どおり収集します。

1/8月
成人の日

【普通ごみ】(月)収集地区
 【有価物】(月)収集地区
 【大型ごみ】茂陰一・二丁目、千代、新地、青崎南

年始のごみの持ち込み

1月4日(木)から、通常どおり受け付けます。

年始は大変混み合いますので持ち込む日をずらすなどご協力をお願いします。

不法投棄のパトロールを行っています

町外からの持ち込みによる大型ごみの不法投棄が後をたちません。現在、警備会社のごみステーションのパトロールを行っています。車などでごみを出していた時は、住所等を確認しますので、ご協力をお願いします。

カラス、猫などによるごみの散乱防止対策

- ◆生ごみは新聞紙等で包み、夜間に出さないようにしましょう。
- ◆ネットによる対策が有効です。ネットはごみ袋をしっかりと隙間なく覆いましょう。

広告

広告